

視察園概要② 永谷 直(ながや なおき)さん (32歳)



視察場所：村田町大字沼辺字上ノ山2-14
TEL：080-3459-7502

家族構成：本人 (移住、借家住まい)
就農時期：平成26年5月
…ハウス設置完成平成27年2月
※仲間3人で3日間。自力施行。

営業マンからの転身

「[※]緑のふるさと協力隊」での経験を経て、
農村に住み、農業を仕事にする生き方を選択！

1. 就農するまでの経過

仙台市出身。実家は、農家ではない。

6年間半導体の部品メーカーで営業マンとして働く。

たまたまNHKのテレビ放送で、「緑のふるさと協力隊」の活動を見て、誇りを持ってやれる仕事として、農業を考えるようになった。

平成24年3月会社を退職。同年4月から緑のふるさと協力隊で1年間、山口県山口市で、農作業や工芸品作りをしながら(月5万円で暮らす。)農村の生活を体験した。この経験を経て、農家になりたいと決意した。

2. 就農準備～ 研修・農地・資金

研修：・長野県でレタス農家の体験や山口県での夏野菜ピーマン農家体験等を通じ、自分のスタイルを模索。最終的には、山口県でおばあさんがしていたEM菌を利用した少量多品目栽培の有機栽培をやりたいと思った。

- ・全国の有機栽培農家から村田町のボンディファーム鹿股さんを知り、平成25年5月から1年間、野菜の有機農法による栽培技術の研修を実施した。

農地：村田町の自然農場「風天」中山さんに相談し、町の農業委員会の定例会に、「借家と農地を紹介して下さい。」と自己PR資料を配り紹介をしていただいた。2カ所から紹介があり決定しました。

資金：研修期間

- 平成25年3月に県から研修計画の認定を受け、平成25年11月に申請し、青年就農給付金(準備型)受給：平成25年12月振込)

経営開始時 →青年就農支援資金(就農施設等資金)を借り受け、ハウス、トラクター、管理機等を整備。
初期投資：250万円(内150万円借入)。

3. 経営内容（品目、面積）

- ①栽培面積：露地畑 90a
 パイプハウス（育苗用）1棟56㎡（17坪・2.5間×7間）
- ②作付品目：
 （果菜類）ミニとまと、なす、ピーマン、パプリカ、シシトウ 他。
 （葉菜類）キャベツ、レタス、チンゲン菜、白菜 他。
 （根菜類）里芋、にんじん、大根、カブ、タマネギ、ニンニク 他。

4. 経営の特徴

- ・有機無農薬栽培…完熟鶏ふん利用
- ・少量多品目栽培…80品目

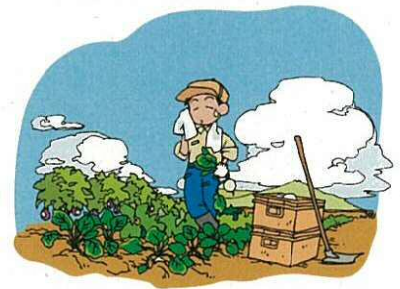
販売目標（就農から5年目） 700万円。（所得350万円）
 ※初年目は、ほ場準備と農産物は、主に営業活動の販売促進に使用。
 今年（2年目）は8月末で販売額100万円。経費50万円です。

5. 労働力

1人。

6. 出荷販売先

直売所：道の駅むらた、アグリエの森（秋保）
 宅配：レストラン2件、個人消費者5人、
 イベントでのおためしパック販売
 ※現在、HPの開設に向け準備中。



7. 今後の目標

有機の良さを知っていただきながら、協力隊仲間とも広く連携しあいながら販路を拡大していきたい。

8. 新規参入者希望者へ一言

「どんな農業がしたいのか、農村暮らし（地区の運動会など）を体験してから決めてほしい。（就農時の現実とのギャップを少なくする事が大事）」

〈人生の軌跡〉

		決意	体験研修	研修	就農	現在
15~22歳	23歳	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳
カタ留学	会社に入社	会社を退職	緑のふるさと協力隊	自然循環型農業研修	村田町へ移住	

※「緑のふるさと協力隊とは、

農山村に興味を持つ若者が、地球再生に取り組む地方自治体に、1年間住民として暮らしながら、地域密着型の活動に携わる活動です。

- ①協力隊となる参加者、②若者を受け入れる自治体、③両者を結ぶNPO法人「地球緑化センター」の3者が連携を獲りながら行う地域貢献活動。

特徴〈自耕実践の一年間〉

- ①ひと月5万円の暮らし ②地域へどっぷりつかる1年間
 ③生きる力を蓄える ④地域とともに成長する